



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2740



2019-2020年度 国際ロータリー第2740地区

ガバナー 千葉 憲 哉

2020. 5
Vol. 11



ROTARY CONNECTS THE WORLD



2019-2020年度 国際ロータリーのテーマ
ロータリーは世界をつなぐ

表紙の写真説明

川床の多良熔岩のなせるわざ
あまたの瀧はつらなりて
流れゆたかに いや深く
本明川のナイアガラ

CONTENTS

国際ロータリーのテーマ.....	1
Governor's message	2
R I 会長メッセージ.....	4
2020～2021年度 地区チーム研修セミナー報告	5
第4グループ インターシティミーティング報告	6
基本理念セミナー報告.....	7
補助金管理セミナー報告.....	8
緊急報告 新型コロナについて.....	9
ネット例会及び理事会、委員会 開催の奨め.....	11
寄付者紹介.....	11
会員数・出席報告.....	12
新会員・物故者紹介.....	13
国際青少年交換学生帰国報告.....	14
芸術家の視点・編集後記.....	裏表紙

Governor's message



ロータリーが教えてくれた事

2019 - 2020年度第2740地区ガバナー 千葉 憲 哉

残り2カ月となりました。今回はガバナーになって、得たもの、それは皆様の心に残したいものについて述べさせていただきます。

ガバナーになるにあたって、少しでもロータリーを知ろうと、ノミニー時代から、いろいろな資料を読ませていただきました。「手続き要覧」、「ロータリー章典」、「ロータリー財団章典」は勿論、源流の会からの数々の文献、源流の会から提供されているインターネット資料、田中毅P Gの「源流の会の講演内容」、小西宗十氏翻訳のシェルドン・コース全集、そして佐古亮尊P Gによる「ロータリーの森を歩く」などです。他には、多年度分のロータリーの友、ガバナー月信さらに地区大会資料、My Rotaryの閲覧など数えれば限りありません。ロータリー章典は数年ごとに内容が書き換えられており、その度ごとに内容変更を確認する必要がある、ロータリー活動になくてはならない参考書です。また、ロータリーの歴史上、ロータリー哲学の成り立ちの資料として田中毅P Gの提供されたシェルドンの文献の収集はロータリー哲学の真実を裏付けるものとして、医師らしい研究方法と論理組み立てはとても貴重なものです。そして、時々刻々と変化するロータリー情報について源流の会の「ロータリーの広場」「炉辺談話」「源流の会出版物」などは田中毅P Gの熟考された私見がのべられており、私のロータリーへの疑問を解決するとても有意義なものと思いました。また、数多くのP Gの皆様の講演会資料、ロータリー研究会資料などもとてもロータリーの理解に役に立ちました。

その中で、私に最もロータリーについて教えて頂いた本は佐古亮尊P Gが書かれた大村北ロータリークラブ創立30周年記念として出版された「ロータリーの森を歩く」でした。何度でも読み直す価値があり、新入会員に真っ先に薦めたい本であると思いました。

佐古亮尊P Gの思索はロータリアンの皆さんが知っておくべきと思っていたある日、私が懇意にしている財界九州の鳥海和史氏が立ち寄った折、雑談中に私がガバナー月信に載せようとして書いていた原稿を見せたら、これ、頂けませんか？ と言ったので、つい渡してしまいました。財界九州の2月号の「opinion」に載ってしまいました。その内容は佐古亮尊P Gから教えて頂いた「利己と利他の調和」でした。これはロータリーの最も大切な哲学と思っていましたので、ロータリアンの皆様にこれこそロータリーの真髄、ロータリアンには常に心に持っていてほしいと思いましたので書かせて頂きました。

以下、皆様に読んでいただく為に、本文を転載いたしました。

「利己と利他の調和」を求める経済理論の必要性

人間は「欲望」と「思いやり」の二つの矛盾する心を持ち、心の中で葛藤する。利己心と利他心、この二つの心は人間の生活のあらゆる場面で遭遇する。

例えば商売をすると沢山売って、沢山儲けたいと思う。儲けたらその儲けは自分のものだから独り占めしたいと思う。これは利己心である。自分がかわいいからです。これは人間の性^{さが}ともいえる。

ところが、温かい家庭環境に育った人ならば、自分だけ独り占めしたら、心のどこかで自分だけ儲けたら、どこかにやましいなと思う心が出てくる。自分一人だけが儲けに関わったのではなく、他人が関わっている事に気づく。その人にも儲けを分けてあげないといけなくなる。これが他人を思いやるという利他心である。社会生活ではボランティアや奉仕につながる心です。



市場のレベルで考えると「見えざる手」という言葉を残したアダム・スミスは「人々が利己的行動をしても市場に自動調整機能があるので、政府が介入すべきでなく市場に任せよ」と言いましたが、現実には利己心が勝るために市場の混乱が起きたのです。だから19世紀の原始資本主義社会で起きた貧富による社会の矛盾を是正するために教会や奉仕団体が社会の底辺を救ったのです。

利己と利他の葛藤はビジネスにおいては単純だが重要な意味を持ちます。利己心だけならば、その場限りで大儲けしたらそれでよい。ビジネスでお世話になった周りの人間関係などどうでもよいということになる。騙すことだって平気となり当然、信頼も信用も生まれない。では利己的ビジネスマンと再度取引したいと思う人がいるだろうか？ もし、ビジネスに関与したステークホルダーすべてに儲けを分けることを行うビジネスマンがいるならば、再度取引したいと思うであろうし、リピーター顧客出現につながる。

すなわち利他を行えるビジネスマンは事業が栄えるということである。そのことに気づいたシカゴのビジネススクールの指導者が100年前に存在した。その人の名前はアーサー・シェルドンという人である。彼はビジネスにおけるサービスを「利他と利己の調和」と定義した。彼はビジネス成功のコツを「最も多くサービス（利己と利他の調和）をする者は最も多く報われる。」と言った。当時、シカゴは初期資本主義の始まった時期で、自分さえよければよいというビジネスマンばかりでした。その中で、彼の理論を実践したビジネスマンは大儲けしたのです。1930年に起こった経済恐慌の中でも彼の唱えるビジネス理論を実践した企業は生き延びたのです。彼のビジネススクールは隆盛を極め、注目を集めました。強欲資本主義全盛時代。その最中に利他を唱える経済学理論は時期尚早と考えられた時代でした。ケインズが「雇用・利子および貨幣の一般理論」を唱える遥か以前の出来事でした。しかし、戦後、「利己と利他の調和」の大切さを忘れて、リベラリズム、マネタリズム、新自由主義、金融資本主義などの経済学が跋扈し、ついにはリーマン・ショックが起こったのは周知の事実です。最近、大企業の経営者が多額の報酬を得ることが問題になっています。利己を主張した経済理論がすでに行き詰まっています。温故知新、もう一度シェルドンの意見に耳を傾ける時です。シェルドンの研究家田中毅氏によれば「シェルドンの業績は、その影響範囲が限られていたため、過小に評価されていますが、当時、誰一人として知らなかった修正資本主義という、全く新しい経営学に基づく経済政策を先取りしたものであり、もしもロータリークラブの世界やシェルドン・スクールといった狭い社会に留まらず、政府の経済政策として採択されていたら、その後の世界の政治や経済にどのような変化をもたらしたか、想像は果てしなく広がります。ごく一部の人が理解できないミクロ経済の政策でしたが、もし政府のマクロ経済として採択されていたら、大恐慌は起こらなかっただろうし、その結果としての第二次世界大戦も起こらなかった可能性すらある、世界経済を転換させる、価値ある政治経済理念だったのではないのでしょうか」と述べています。同じく「ロータリーの森を歩く」の著者佐古亮尊氏は商売に於ける「利己と利他の調和」について「仕入れ先を思いやる心が確かな品を気持ちよく納入させることになり、それによって客は確実な品物を買えて喜ぶ。自分の納めたものが人様に喜んでもらえたということで、自分の仕事に誇りを持てる。買っていただいてありがとう。売ってもらってありがとう。これが心の交流の伴った商行為である。」と述べています。まさに利己と利他が調和して継続性のあるビジネスが成り立つ。今、必要とされる考え方ではないのでしょうか？

企業でも「利己と利他の調和」が求められています。強欲企業や強欲経営者は社会から退場させられる事態となっています。利己と利他の心があれば、企業では経営者は従業員に「今日も働いてくれてありがとう。」従業員も「今日も働かせていただいてありがとう。」となる。おかげで家族が幸せに暮らせます。経済界も需要と供給が有効に回転することになる。利己だけを求める経済理論は不要です。心と心の通じ合う「利己と利他の調和」を求める経済理論が今、必要なのです。

いかがでしょうか？ 皆様企業経営をされている方々ばかりです。皆様と違い、一開業医の私には経営哲学は持ちあわせていませんでした。でもロータリーが医療しか知らない私に経営の真髄を教えて頂いたと思います。佐古亮尊 P G、田中毅 P G に深く感謝申し上げます。

R I 会長メッセージ

ロータリアンの皆さま



現在、新型コロナウイルス（COVID-19）が私たちの生活のあらゆる側面にリアルタイムで影響を及ぼしており、ロータリアンは通常とは異なる事態に直面しています。「世界を変える行動人」として自由に動き、会合を開き、支援の手を差し伸べて世界に関与できることが最善の状態ではありますが、目下の状況では、一緒に学び、成長し、そして奉仕することが非常に困難となっています。

リーダーシップが求められる今日、私たちは地域社会のリーダーとなっており、多くの点において今こそ私たちが必要とされるときとなります。私たちはこれまで、助けを必要としている人びとに迅速に支援を提供するため、行動し、協力する能力を証明してきました。それはまさに、現在の世界で必要とされているスキルです。新型コロナウイルスに対する世界的な取り組みは各国での行動にかかっており、ロータリーには、すべての国と地域社会で、それらの行動を前進させるための能力が備わっています。

ロータリアンは、ロータリークラブ、ローターアクト、インターアクトと協力し、あらゆる技術を駆使して大きなプロジェクトに取り組むことができます。実際、保健当局が必要とされる情報を伝えたり、必要な機器や支援を提供したりする際に、ロータリークラブが力となる例が数多くあります。

ロータリー会長、そして会長エレクトとして、私たちは今後のロータリー行事に関して極めて真剣に検討を行ってきました。ご存じかもしれませんが、私たちは国連との協力関係に焦点を置いた二つの会長主催会議（それぞれパリとローマが開催地）を中止するという困難な決定を下しました。また、ロータリー地区とクラブには、国や地元の保健当局の勧告に従って、近く開催予定の会合や行事を中止または延期することを推奨しております。

この困難な状況において、すでに多くのクラブや地区が、テクノロジーを賢明に駆使し、それぞれの地域社会でリーダーシップを発揮する機会を見出しています。例として、イタリアのEクラブは新型コロナウイルスへの認識向上を目的としたオンラインセッションをライブ発信し、台湾のクラブは企業や薬剤協会と連携して手の消毒液ボトル1600本を基隆市に提供し、スリランカでは保健推進局によるウイルス対策メッセージの配信を援助するため複数クラブがソフトウェアとハードウェアのアップグレードを支援しています。

今は、「ロータリーは世界をつなぐ」のテーマを革新的な方法で示す機会となります。また、私たちはWHOと地元保健当局の勧告に注意深く従うべきであり、それには、感染を引き起こしうる不必要な接触を減らすためにクラブの行事や会合を中止することも含まれます。私たちが注力できることは、恵まれない境遇にある人びとが孤立や不安に対応できるよう支援し、保健当局が現況に対処できるよう支援するなど、各地域社会での活動となるでしょう。

私たちはリアルタイムでこの状況に対応しています。最新情報は、[rotary.org](https://rotary.org/covid19)の新型コロナウイルス関連ページをご参照ください。

私たちのほぼ全員にとって、これは前例のない挑戦です。しかし同時に、人びとと地域社会を導き、世界を良い方向へと導くための意義ある新しい方法を見つける機会ともなります。

私たちは、地元と世界中で地域社会を守り、かつ強化するために多くを実現する団体の一員であることを、かつてないほどに誇りとすることができるようでしょう。

心を込めて

2019-2020年度国際ロータリー会長
マーク・ダニエル・マローニー

2020-21年度国際ロータリー会長
ホルガー・クナーケ

2020～2021年度 地区チーム研修セミナー報告

地区チーム研修セミナー 実行委員長 大坪 稔 (鹿島RC)

2月23日(日)鹿島市の割烹「清川」にて首題の研修セミナーが開催されました。花島ガバナーエレクトより次年度のガバナー補佐・地区委員長の紹介と委嘱状交付、地区関係者の紹介がされました。

□次年度テーマは【ロータリーは機会の扉を開く】

次年度のR I 会長はドイツのホルガー・クナー氏。次年度R I 会長テーマは「ロータリーは機会の扉を開く」に決定したと報告されました。その意は「ロータリーとは、クラブに入会するというだけでなく無限の機会への招待であり、私たちのあらゆる活動がどこかで誰かのために機会の扉を開いていると。」

□次年度地区ビジョン

花島ガバナーエレクトは地区ビジョンとして「R I テーマを理解した地域の特性にあった活動による具現化」、「ロータリーの原点である『親睦』と『職業奉仕』を根幹とした世界、地域社会での良い変化の創出」、「それぞれが『魅力ある・元気ある・個性ある』クラブになることを目指すこと」を掲げ、さらに、地区目標として以下のような具体的な説明がされました。

- ①地区運営 [D L P] (地区リーダーシップ・プラン)：ファシリテーション委員会を新設・奉仕プロジェクトに職業奉仕委員会を入れる・ローターアクトクラブの活動見直し・新クラブの設立・『新R Y L A 検討委員会』を設立・ポリオ根絶・自然災害被災者への救済活動
- ②クラブ運営 [C L P] (クラブ・リーダーシップ・プラン)：(ファシリテーション) 方式例会を試行・戦略計画委員会の全クラブ設立
- ③ロータリー財団への支援：
 - ・寄付金『ゼロ』クラブ『ゼロ』の継続。
 - ・ロータリー財団への年次寄付目標 1人平均：150ドル／年間
 - ・米山記念奨学会への年次目標 1人平均：16,000円／年間
 - ・ポリオプラスへの支援 月1回「ワンコイン運動への協力依頼」

□研修セミナー

福田地区研修リーダー (P G) により、「ガバナー補佐・地区委員長の業務内容について」と題した講演をしていただきました。講習はリーダー自ら作成された「ロータリーの手引き」を用いて「ロータリーの主要な知識」について、具体的に分かり易い実践的なお話をいただきました。ロータリアンとして、また次年度の地区活動を支える立場の役割を理解する、たいへんよい機会となりました。



千葉ガバナー



福田地区研修リーダー (直前ガバナー)



花島ガバナーエレクト



研修会場風景 (割烹清川)

第4グループ インターシティミーティング報告

I M実行委員長 中 島 幸 利 (唐津RC)

国際ロータリー第2740地区第4グループでは、令和2年2月24日(月)唐津シーサイドホテル「虹の間」において2019～2020年度INTERCITY MEETINGを実施しました。

新型コロナウイルスによる感染リスクが懸念される中、開催が危ぶまれましたが、何人かのドクターのご意見を頂くとともに、会場入口に消毒液を設置するなどしてなんとか開催にこぎつけることができました。

ここ数年、我々が学んできたロータリーのクラブ奉仕や職業奉仕に対する考え方に対して、現在のR Iのそれは少し異なってきたのではないかといわれてきました。そうした中、本州のとあるパストガバナーが会報「ロータリーの友」に「職業奉仕は本当にロータリーの根幹なのか？」というご意見を掲載され、全国的に衝撃が走り、賛否の意見が戦わされたことは記憶に新しいところです。その後も、例会の頻度、make upのあり方、職業分類、職業奉仕の考え方など新しい指針が示される度に違和感を強くする昨今、R Iにおいてどのような議論がなされているか大変気になるところでした。

今般、I Mを計画するに当たって、現在R Iでどのような議論がされているのか、その論点は何かといったことについて、規定審議委員であられるパストガバナー岩永信昭様に、「温故知新」というテーマでご講話をお願いしたところ快くお引き受けいただきました。

当日は、ご来賓として千葉憲哉ガバナー、同令夫人、隅田達男パストガバナーをお迎えし、多数の会員の出席のもと、I Mを開催することができました。

講演内容の詳細は別紙に譲りますが、岩永パストガバナーから古いロータリーも理解し、新しくこんな風に変わってるんだということを理解して、奉仕・親睦といった部分は根本部分は変わっていないということを理解しなければならない。ロータリーは今も昔も変わらず、奉仕の理想を遍く世の中に浸透させるための団体である。これまでの五大奉仕「クラブ奉仕・職業奉仕・社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕」を「クラブ管理運営・会員増強・公共イメージ・ロータリー財団・奉仕プロジェクト」の категорияで捉えるクラブリーダーシッププラン(CLP)が提唱されている。R Iでは、戦略計画から行動計画に移っている。その中核的価値観は、奉仕・親睦・多様性・高潔性・リーダーシップという5つのキーワードで示され、これらを具体的に実践することが重要であるとされていることをご説明いただきました。

短時間ですべてを理解するのは難しいと思いましたが、学びを進めていきたいと思いました。

末尾になりますが、講師をお引き受けいただきました岩永パストガバナー、千葉ガバナーほかご来賓の皆様、新型コロナウイルスによる感染症が懸念される中ご出席いただいた第4グループの会員の皆様、そしてホストクラブとしてI M開催に様々な準備を頂いた唐津RCのスタッフの皆様に、心から感謝申し上げご報告とさせていただきます。



基本理念セミナー報告

基本理念委員会 委員長 吉岡 義治 (佐賀南RC)

年度末を前に、お忙しい中 セミナーにご参加して頂いた皆様、誠にありがとうございました。

今回のセミナーを開催するにあたり、準備に半年の期間を要しました。

基本理念委員会は、ロータリーを知り、ロータリーの魅力を知ること、会員減少に歯止めがかかればという千葉ガバナーの要望で設置されました。

「ロータリーとは何か? さらに行動するにはどうしたらよいか?」を考えてもらう委員会という、大変ハードルの高いものでした。委員会としての活動をどのようにすればよいか、例会がどうすれば盛り上がるかを考え抜いて、行き着いたところが「RLI ディスカッションリーダー研修会でのファシリテーションを使った会議方式」でした。

ロータリーでのファシリテーションとは、例会活動が円滑に進むように、そして例会の成果を最大化できるように促進することです。そのためには話の流れを整理し、参加者の合意形成をサポートするファシリテーターが必要となります。

ちょうど2700地区のご厚意で「2700地区RLIDL研修会」へ我が地区からも受講させていただける事となりました。10名の方へお願いし、福岡で「パート1～3」までのプログラムを月に1回、朝から晩までの集中講義を受講、そして終了し、ファシリテーターになってもらいました。

基本理念委員会のメンバーの他、駒井英基パストガバナー、高木義和次年度ガバナー補佐、帯屋徹社会奉仕委員会委員長、久保泰正公共イメージ委員会委員長、徳川清隆インターアクト委員会委員長、藤永勝之次年度会員増強委員会委員長、池田敬介佐賀北クラブパスト会長の方々です。ご快諾いただき感謝いたします。それぞれの専門とする奉仕部門を超えて一緒に受講していただいたことは、大変、意味深いことだと思っています。今後もいろんなセミナーへ、また例会への参加要請の際には宜しく願いいたします。

今回のセミナーでは、ファシリテーションを今後の例会に取り入れていただきたく思い、会長・幹事に参加をお願いしました。

さてセミナーですが、特別講師にRLI 日本支部ファシリテーター委員長の中村靖治先生をお迎えし「ロータリーの基本理念とこれからのセミナーの進め方について」というテーマで講演して頂きました。

その内容をふまえ、参加者全員によるテーブルフォーラムを40分間行いました。9つのテーブルに分かれ10名程度の人数で、

- 1: 貴方のクラブではクラブの活性化についてどのような取り組みをしていますか。
- 2: 今後、貴方のロータリークラブの活動の中での重要な事と思われることについて。
- 3: 貴方にとって、ロータリークラブとはどのような目的の会合だと考えているのか。

という3つのテーマで9人のファシリテーターを進行役として行いました。

どのテーブルでも時間が経つのを忘れるくらい活発な意見が飛び交っていました。

終了後、いくつかのテーブルに協議を発表してもらい、最後に中村靖治先生からアドバイスを頂きました。今後に期待する大変有意義なセミナーとなりました。

まだ我が地区では始まったばかりの会議方式ですが、ロータリーの活性化に繋がっていただければと思います。



補助金管理セミナー報告

ロータリー財団委員会 委員長 岡村 康 司 (長崎南 R C)

11月は国際ロータリーの「R財団月間」となっています。例年通り2740地区内のクラブの例会にお邪魔して30分の卓話を行ってまいりました。今回は8クラブの例会に参加し、R財団の成り立ちと歴史、現在の活動状況などについて話をさせていただきましたが、それぞれのクラブのロータリー財団に関する関心の高さというものを知りました。

R財団委員会のいちばん大きな役割は、各クラブが行ういろいろな奉仕活動の資金の一部としてR財団の補助金を使っていただく事です。その補助金を受給できる条件として、地区主催のR財団セミナーと補助金管理セミナー（毎年11月と翌年2月）に出席し、内容を理解していただく必要があります。

本セミナーの中身は、次年度に行う事業についての地区補助金の申請方法が中心となりますので、次年度の財団委員会関係の方々を対象に行うものであります。R財団セミナーでの復習の部分もありますが、先ず地区補助金、グローバル補助金の仕組みを理解していただければ実際の補助金申請の手続きもわかりやすくなります。ということでセミナー前半の一部は私ロータリー財団委員長の岡村より、R財団の現況報告と補助金の活用について、報告を行いました。

続いて次年度補助金委員長の西川義文さん（大村 R C）から配布した資料テキストに基づき地区補助金申請の手順を丁寧に説明してもらいました。

MOU（クラブの参加資格認定覚書）の提出をお願いするとともに、多くのクラブの地区補助金申請を希望しております。

前半が終了し休憩を挟んで、後半最初のプログラムは「2740地区の寄付金の現状報告」を資金推進委員長の古賀秀仁さん（伊万里西 R C）にしてもらいました。

資金推進委員会では、常に3つの目標を掲げています。

- ① ロータリー財団への寄付を一人年間150ドル
寄付額は2019年12月現在76,020.41ドル
- ② ロータリー財団寄付0クラブを無くすこと
- ③ ロータリーダイナースクラブカード入会のお願い

次に「地区補助金・グローバル補助金事業の事例報告」として、2019年にネパールの小学校で行った水と衛生の支援・教育事業について隅康二さん（佐賀西 R C）が報告されました。

ご存知と思いますが、ネパールで行ったこの事業は、ロータリーの友3月号「特集 水と衛生月間」の記事として詳しく紹介されました。

喜多清基さん（島原 R C）から J I C A 海外協力隊 酒井貴子さん（2018-19 財団奨学生）のマダガスカル通信の紹介をしていただきました。

最後になりましたが、次年度地区補助金を活用した奉仕活動を実施していただけるクラブが増えることを願っております。

たくさんの方々のセミナー参加にお礼申し上げ、全クラブのご活躍を期待しております。



緊急報告 新型コロナについて

第2740地区 2019-2020年度ガバナー 千葉 憲 哉

世界中が新型コロナ発生で最初はすぐにも収まるかのように考えていましたが、新型コロナの重症化拡大とともに、社会そのものの停止、崩壊状態が進行し、生命の危機さえ覚える事態となりました。世界中の人々が身体的、精神的、経済的にも追い詰められています。我々ロータリアンはこのような事態に遭遇し、どのように行動すべきでしょうか？

まずはロータリアン自身、その家族の為に何をすべきか？ は、それぞれ個人の状況により生命安全の確保、生活の維持を優先すべきです。ついで、社会に果たす役割を考えます。

第2740地区の地区活動について

まず、IMや周年行事の延期もしくは中止を推奨しました。次に各地区で行われた地区大会や記念行事参加中止。国際大会中止と参加取り消し通知、例会の休止の通知などです。

特に国際青少年交換学生、米山奨学生、ロータリー財団奨学生についてです。国際青少年交換学生についてはインバウンド、アウトバウンド共に学生の早期帰国と感染予防とその周知でした。インバウンドの1名（本人家族ともに残留希望、祖母が日本在留）を除いて全員帰国しました。委員会の皆様の懸命な御努力で実現しました。最大の問題は国際青少年交換学生、米山奨学生、ロータリー財団奨学生が次年度実行可能か？ ということです。現在の国境閉鎖状態では7月からの国際青少年交換学生派遣は不可能です。また、米山奨学生については米山奨学生の選定は終了、また修了式などは中止され、次年度はすでに決定されており、日本在住の方が多いため奨学金授与は可能ですが、例会場で授与できるか？ カウンセラーが十分できるか？ というところです。ロータリー財団奨学生については、すでに派遣国に在住している者は帰国せず、活動中で、健康・勉強状態の把握と家族への情報交換や連絡が行われています。しかし、次年度のロータリー財団奨学生の選考は先日済ませましたが、派遣できるか未定です。

例会再開について

ガバナーとしての希望は、例会再開について、**会員の健康を第一**に考えて再開を決定することです。**出席率100%を目指すクラブ**があります。100%出席率はRIに報告すべき事項ではありません。年度末までに他クラブでメイクアップするとか、出席免除を利用するか？ クラブ独自で方法をお考えいただきたいと思います。地区としては非常事態であり、通常の規定を当てはめることは考えていません。

100%出席に関する三木RI理事への質問のご返事

個人的考えと前置きし、「出席率についてRIが出席率についての指示を出すことはありません。6月末までにメイクアップができない可能性は大いにあります。100%を目指すロータリアン、クラブにとっ

ては何とかそれをクリアしたいと考えておられることは当然です。ロータリアンが、他のクラブを訪問したいと思い、そのクラブが例会を開いていなかった場合、訪問したいロータリアンにその意思があれば、それでメイクアップとみなしてもいいのではないかと思います。他のクラブを訪問して何かを学びたい、仲間と友情を交換したい、そして心を磨きたい、行きたいと思うクラブがたまたま例会をしていない場合は、柔軟にメイクアップととらえてもいいと思います。心配ならEクラブを利用してください。」とのこと

コロナ感染の今後の展望について

ロータリアンの皆様の関心事は例会の再開です。現在、感染拡散防止のために例会休止をそれぞれのクラブで決定されています。いつから再開できるのでしょうか？ 第2740地区の新型コロナ発生の現況を見てください。4月19日現在の感染者は佐賀16名、長崎17名です。**重態者や死者は発生していません。だからと言って安心してよいのでしょうか？** 長崎県による疫学調査では東京・大阪みたいに、もし感染爆発が起こったら、感染者4600名、入院必要者2600名、重傷者90名と予想されています。そのために長崎県、長崎県医師会、各地区の医療機関、介護施設は感染予防のための対策指導と感染防止行動、重症度に基づく医療機関の機能分担を懸命になされています。新型コロナの治療法が現在ありませんから、**医学的収束には治療薬開発、その利用、ワクチン開発及び接種を含めて、患者発生時点から治癒までは18カ月から24カ月を要すると**されています。すなわち、安心して日常活動できるのは最悪来年までかかるということです。例会再開は程遠いということになります。このまま第2740地区で感染爆発が起こらないことを祈るばかりです。

フェイス・シールド寄贈について

先日、第2760地区（愛知）の伊藤靖祐ガバナーから全国の地区にフェイス・シールド寄贈の提案がなされました。内容は「自治体や医師会を通して、あるいは直接医療施設に防護具としてフェイス・シールドを寄贈するものです。東海地区の素材メーカーの協力を得て早く、安く、大量に生産し全国に配送していただけることになりました。」佐賀・長崎県医師会はどうのくらいの量を希望されるのか？ 財源はどうか？ 感染防止の為会議ができない現在、ロータリアンの皆様のご了解はどのようにしてとるのか？ の検討が必要でした。そこで両県医師会長に直接お尋ねし、「是非**寄贈（約3万個です。）** 願いたい。」とのことでした。ロータリアンの皆様とは危機管理委員会を4月22日に開催し、御了解を得たいと思っています。財源は、地区の財団委員会や地区財源を検討させていただきます。

アンケート調査について

「アンケート調査について例会休止だからできない。どうしたらよいですか？」との質問がありました。アンケート調査は会員自身が自分のクラブの状態（クラブの長所・短所を知り、クラブの理想像・未来像を知る事）を把握するために行うものです。それをクラブ協議会や公式訪問で利用するというものです。しかし、今年はクラブ協議会や公式訪問が実現できるかどうかさえ現在は未定です。だから、**クラブ協議会や公式訪問開催が決定されたら、その前までに実施し、集計したらいい**と思います。エレクト事務所からのクラブ協議会や公式訪問開催の情報を確認してください。クラブ活性化実現のために、是非継続していただけたら幸いです。

最後に

私の年度はあと2カ月が残っています。その間に危機管理委員会、地区戦略会議、花島エレクトへの引継ぎ、新旧ガバナー補佐交代式、諮問委員会などです。どのような形で開催するか？ 検討中です。すべてのロータリー活動が中断され、クラブ会長幹事はじめ、事業企画や準備にご苦労された皆さまは残念の事と思います。ロータリー活動ができるのも健康あっての事です。**皆様の健康を第一に考え行動してください。**一日も早い新型コロナの収束を祈ります。



ネット例会及び理事会、委員会 開催の奨め

中 島 閏 二 (佐世保北RC・地区HP作成担当)

「新型コロナウイルス」の影響で皆様のクラブは、クラブ例会や理事会の休会が余儀なくされていると思います。

この感染症がいつ終息するか分からない状況の中、ロータリークラブの活動も大きく制限されています。そこで今、話題になっているインターネットを介してのネットミーティングやネットセミナー（ウェビナー）が注目を集めています。

国際ロータリーも今、ネットでの例会や理事会の開催を推奨しています。

そして、すでに国際ロータリーや一部のロータリークラブはネットを介しての会議や例会を開催しています。

例をあげますと北海道の2500地区においては、地区協議会やPETSなど全てネットを介して行ったとの報告を受けています。

Face to Faceの例会や理事会、委員会の開催が難しい中、このようなネット会議ツールを導入しネット例会や理事会などを行ってみられてはいかがでしょうか？

導入費用はとても安価で2,000円／月程度です。クラブがひとつのアカウントを取得しクラブ会長さんなり幹事さんが中心となって運用していただければ、会員の皆さんはネット例会や理事会に無料で参加することができます。

国際ロータリーが推奨するネット会議ツールはZoomというツールです。他にも多くの同じようなネット会議ツールがありますので皆様のクラブに適したものを選んで活用して下さい。

寄付者紹介

御厚意に深く感謝申し上げます。認証者の方を掲載いたします。

ロータリー財団		
種 類	氏 名	クラブ名
メジャードナー	高 木 栄	大 村 東
	宮 崎 清 彰	諫 早 北
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー	原 口 公 郎	佐 世 保 西
	森 邦 芳	長 崎 南
ポール・ハリス・フェロー	山 口 幸 子	武 雄
	松 永 いづみ	平 戸
ベネファクター	松 尾 友 平	長 崎 南

米山記念奨学会		
種 類	氏 名	クラブ名
米山功労者メジャードナー	花 島 光 喜	鹿 島
	為 永 伸 夫	大 村 東
米山功労者マルチプル	福 山 和 彦	神 埼
	松 本 勝	長 崎
米山功労者	下津浦 正 明	佐 世 保 南

2020年2月会員数・出席報告

グループ	クラブ名	例会数	平均出席率	会員数				当該月			累計
				7月1日	うち女性	当月末	うち女性	新入	退会	増減	
第1グループ	佐賀	4	68.0	74	5	76	6	1	0	1	2
	小城	4	64.6	30	2	29	3	0	0	0	-1
	牛津	4	78.0	30	0	33	1	0	0	0	3
	多久	4	87.4	38	5	38	4	0	0	0	0
	佐賀大和	3	62.7	26	6	25	5	0	0	0	-1
	小計		72.2	198	18	201	19	1	0	1	3
第2グループ	佐賀西	2	83.1	38	2	43	3	0	1	-1	5
	佐賀北	4	58.2	45	1	46	2	0	1	-1	1
	佐賀南	3	72.8	38	4	40	4	0	0	0	2
	神埼	3	79.6	37	4	38	4	0	0	0	1
	佐賀空港	3	68.5	18	1	18	1	0	0	0	0
	小計		72.4	176	12	185	14	0	2	-2	9
第3グループ	有田	3	74.2	28	0	31	1	0	0	0	3
	武雄	3	90.6	56	5	53	5	0	0	0	-3
	鹿島	3	90.6	34	4	33	4	0	0	0	-1
	嬉野	4	84.6	26	2	26	1	0	0	0	0
	大町	4	71.7	11	0	15	0	0	0	0	4
	太良	4	87.5	10	0	10	0	0	0	0	0
第4グループ	小計		83.2	165	11	168	11	0	0	0	3
	唐津	3	96.9	61	0	61	0	0	0	0	0
	伊万里	3	88.8	29	0	29	0	0	0	0	0
	唐津東	3	91.2	50	0	50	0	1	1	0	0
	唐津西	4	92.3	34	0	37	0	2	0	2	3
	伊万里西	4	96.4	41	0	40	0	0	0	0	-1
第5グループ	唐津中央	4	80.6	37	3	38	4	0	0	0	1
	小計		91.0	252	3	255	4	3	1	2	3
	佐世保	4	100.0	78	0	79	0	0	0	0	1
	平戸	4	81.1	29	2	28	2	0	0	0	-1
	北松浦	4	91.3	25	0	26	0	0	0	0	1
	佐世保西	3	82.7	24	4	22	3	0	0	0	-2
第6グループ	松浦	4	75.9	26	1	28	1	0	0	0	2
	小計		86.2	182	7	183	6	0	0	0	1
第7グループ	佐世保南	4	100.0	62	0	62	0	0	1	-1	0
	佐世保東	4	77.0	23	0	25	0	0	0	0	2
	佐世保北	3	100.0	40	2	45	2	0	0	0	5
	佐世保中央	4	94.6	46	1	49	1	0	0	0	3
	佐世保東南	3	63.8	39	0	41	0	1	0	1	2
	HTB佐世保	3	74.9	23	2	23	2	0	0	0	0
第8グループ	小計		85.0	233	5	245	5	1	1	0	12
	大村	3	87.4	48	4	48	4	0	1	-1	0
	島原	3	79.9	30	2	31	2	0	0	0	1
	雲仙	4	88.5	14	0	14	0	0	0	0	0
	大村北	4	91.3	24	1	25	1	0	0	0	1
	島原南	4	67.5	25	0	24	1	0	0	0	-1
第9グループ	大村東	3	83.9	37	3	38	4	0	0	0	1
	小計		83.1	178	10	180	12	0	1	-1	2
	諫早	4	86.2	72	0	76	0	0	0	0	4
	諫早北	4	83.2	74	4	73	3	0	0	0	-1
	諫早西	4	94.8	45	0	45	0	0	0	0	0
	諫早多良見	3	87.9	32	0	34	0	0	0	0	2
第10グループ	諫早南	2	80.0	14	8	15	9	0	0	0	1
	小計		86.4	237	12	243	12	0	0	0	6
	長崎	3	94.0	74	0	75	0	0	0	0	1
	福江	3	79.6	33	0	33	0	0	0	0	0
	長崎北東	3	83.6	41	3	40	2	0	0	0	-1
	福江中央	3	86.0	21	0	19	0	0	0	0	-2
第11グループ	長崎西	3	91.6	43	1	43	1	0	0	0	0
	長崎琴海	3	87.1	11	0	11	0	0	0	0	0
	小計		87.0	223	4	221	3	0	0	0	-2
	長崎北	2	96.0	80	0	74	0	0	2	-2	-6
	長崎南	3	83.2	72	0	72	0	2	0	2	0
	長崎東	4	84.0	40	2	46	2	1	0	1	6
第12グループ	長崎みなと	3	85.4	30	1	30	1	0	0	0	0
	長崎中央	2	96.3	55	0	52	0	0	0	0	-3
	長崎出島	4	89.9	71	12	72	12	0	0	0	1
	小計		89.1	348	15	346	15	3	2	1	-2
	56クラブ合計		83.6	2,192	97	2,227	101	8	7	1	35

*上記の表の新入・退会は当月中の数字で、累計は7月1日から2020年2月末までの増減です。



新入会員紹介

私たちの新しい仲間になりました方々をご紹介します。 ※氏名の下部は勤務先、役職

※今月号に掲載が間に合わなかった新入会員の方のご紹介は、次号に掲載させていただきます。



佐賀 R C
三根真奈美 君
一般社団法人碧生会
代表理事



唐津東 R C
池田 禎博 君
唐津土建工業(株)
営業部長



唐津西 R C
中嶋 泰輔 君
九州パッケージ工業(株)
代表取締役



唐津西 R C
濱口 博成 君
(株)ハマグチ
代表取締役社長



佐世保東南 R C
中村 寿弥 君
(有)中村商事
代表取締役



長崎南 R C
中山 紀男 君
(医)中山小児科クリニック
理事長



長崎南 R C
辻原 隆 君
ツジハラ防水
代表



長崎東 R C
原田 幸二 君
一般社団法人長崎交流センター
代表理事

物 故 者

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



唐津東 R C
小柳 敏文 君
(享年54歳)



長崎北 R C
松延 脩 君
(享年83歳)

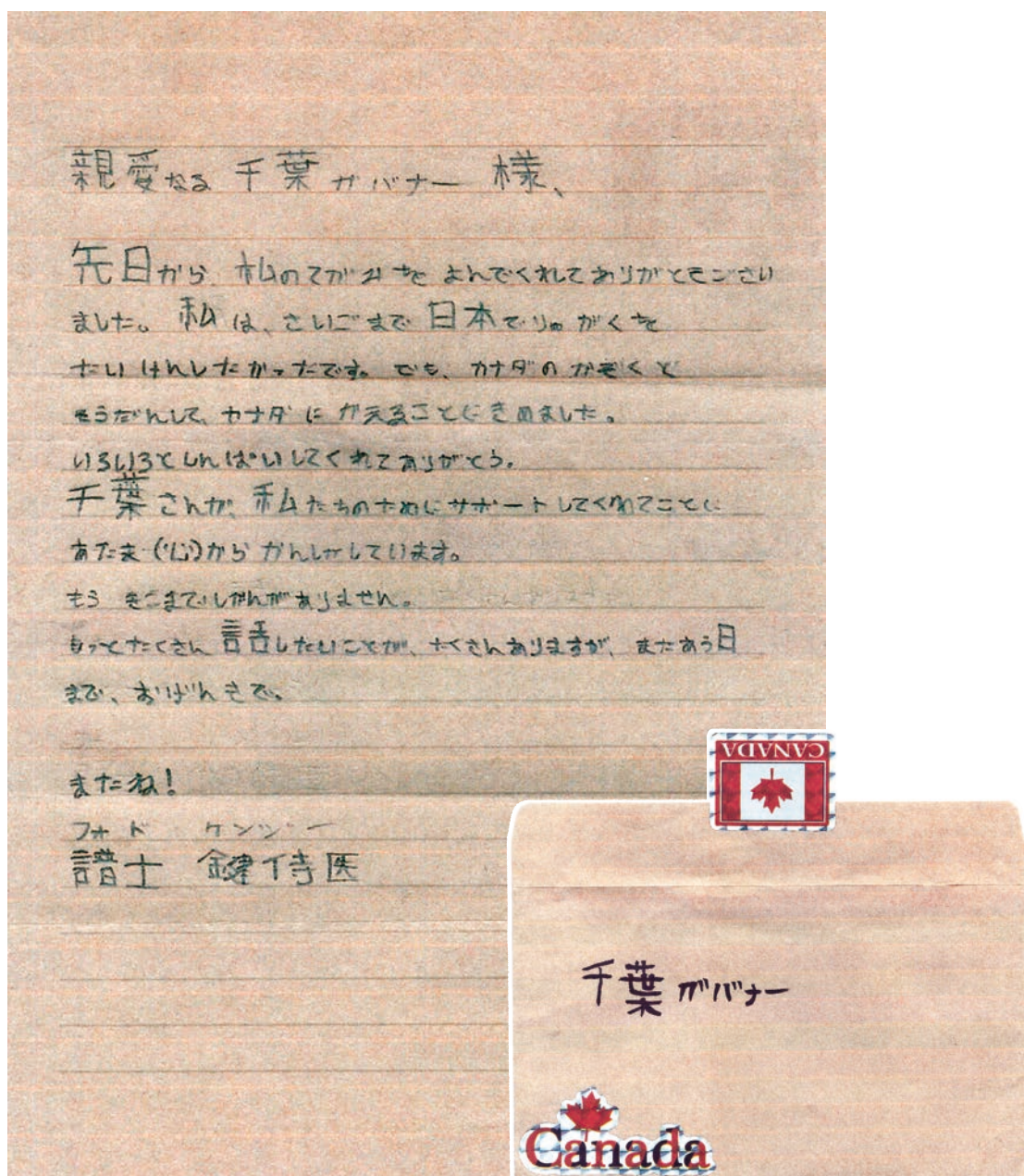
国際青少年交換学生帰国報告

国際青少年交換委員会 委員長 アーリー・ジェフリースチュアート（諫早多良見RC）

COVID-19（新型コロナウイルス）の感染拡大を受け、青少年交換派遣学生は全員（3名）日本へ帰国しました。青少年交換受入学生も3名、母国へ帰国しております。

留学期間が4カ月余り残っていましたが、健康と安全を第一に考えアウトバウンド、インバウンドの帰国を決定しました。

ここに、帰国したケンジーさんの手紙を紹介いたします。彼女は当初、残留を希望しておりました。ガバナーは帰国を促しながらも本人の希望を重視しており、ケンジーさんは日本に残ることを委員会に伝えておりました。しかし、ご両親の説得があり3月24日に帰国の途につきました。ケンジーさんの想いが詰まったお手紙です。



芸術家の視点

地方の時代が叫ばれて久しい。

芸術文化の世界に身を置く人々の中には、以前から中央より地方に軸足を置き、活動した方々がいた。

一般人から見れば、異質の鋭い観察力や豊かな感性で創作に一身を投じたのである。

その成果は作品となって世に放流され、あまねく人々に新鮮な感動を与え続けてきた。

諫早に縁のある画家や書道家、詩人、歌人、文筆家を含む文化人の足跡を辿ると、限られた人生の中で如何にその生を全うしたか、今を生きる者に語りかけてくる。

ガバナー月信の紙面を借りられるこの機会に、皆さんに紹介することにした。



まぼろしの魚

風木雲太郎（詩人）

失明の詩人が
お土産にくれた干乾しの魚も盲目だった
有明海の
渦に生れ渦に育ち渦を食べながら生きた
この魚は
海にあるときは不思議に透明だった
土地の人はこの魚をスボタロウと呼ぶ
驚すほどの軽くはかない姿の連想からだろ
雲仙岳が遠ざかるバスの中で
包みをひらいてこの魚の姿を見たとき
失明の詩人の暗黒を見たような気がした
天目に干され黒褐色に凝固し
細くゆがんだ平たい棒のような魚
小さい歯をむき出し
白い目がとび出て海蛇に似ている
黒い渦に生きる宿命とその執念が
その魚の異形となっている

（以下 省略）

詩集『たこつばの花』より

編集後記

新型コロナウイルス感染症でロータリーも危機に瀕している。例会は休会、各種セミナーも中止、P E T Sでさえも各グループにての開催と聞いた。会員の親睦も深められないまま、職業奉仕に努めるのみである。

早い終息と例会再開を祈るばかりである。

（雅）